

# インド（ムンバイ）における SDGs 教育の実践 — ムンバイで実施されている海岸清掃への参加経験を通して —

前ムンバイ日本人学校教諭

新潟県糸魚川市立青海中学校教諭 矢沢 洋一

キーワード：在外教育施設、ムンバイ、環境教育、SDGs

赴任校の概要 2023 年 7 月 28 日現在

学校名 日本語：ムンバイ日本人学校

学校名・現地表記 Japanese School Of Mumbai

URL <https://japanese-school-of-mumbai.jimdo.com>

児童生徒数 小学部 21 人 中学部 7 人

## 1. はじめに

2020 年 3 月、ムンバイ日本人学校で勤務できる機会をいただきとても期待に胸を膨らませていた。しかし、新型コロナの感染拡大により 2020 年 4 月から 2021 年 9 月までオンラインでの授業となり、対面授業が再開されたのは 2021 年 10 月であった。（実際にムンバイに渡航できたのは 2021 年 1 月末）そのため今まで行われていた行事や他校との交流はほとんど実施することができなかった。

2022 年度（3 年目）はコロナもだいぶ落ち着き、今まで行っていた活動も少しずつ再開できるようになってきた。中学部を担当したこともあり、総合的な学習の時間で SDGs に挑戦したいと考えた。SDGs は今や世間一般に知れ渡り、政府・民間企業・学校・NPO などにおいて様々な取り組みが行われている。日本でも多くの学校がこのテーマを取り上げ実践されていると思う。しかし、SDGs を考える時、ここインド（ムンバイ）では環境、貧困等について本やネット情報ではなく肌で日本との違いを感じることができる。また、調査を進めていく中で、ゴミだらけのムンバイの海岸を甦らせたアフロズ・シャーさんの活動を知った。実際に児童・生徒・保護者と海岸清掃に参加したり、シャーさんにインタビューしたりすることもできた。

本実践では総合的な学習の時間で、このような体験に基づいた SDGs についての調査・研究を行い生徒に Glocal (Think Globally, act locally) な力をつけることを目指した。\*Glocal 本校が研究推進の中で作成した造語

## 2. 環境面において感じるムンバイと日本の違い

インドは今年度中国を抜いて人口世界一となった。今後も発展が予想され、世界各国が注目する国である。しかし、環境や衛生面では様々な課題を抱えている。ムンバイに渡航して感じた環境面・衛生面における日本との違いを以下に述べる。

### (1) 貧富の差

インドは日々経済的に成長しており、富裕層もだんだんと増えてきている。しかし、インド第 2 の都市であるムンバイでもスラムをいたるところで見ることができる。生徒たちが住むフラット（集合住宅）の窓からもスラムの光景が見える地区がある。インド政府が 2013 年に発表した貧困層は、2011 年度の時点で全人口の 21.9% に当たる約 2.7 億人となっている。スラムでは、ゴミが散乱する場所にブルーシートを張って生活している人たちが多くいた。また、路上や高架橋の下で寝ている子どもたちの姿を見ることもあった。

## (2) ゴミの問題

ムンバイでは道路脇や空き地のいたるところにゴミが落ちている。私たちが住む地区では、仕事として道路を清掃している人もいるが翌日またゴミが散乱している状態である。川岸や海岸などもゴミが多くあり、ゴミは川の中や海の中にも浮遊している。街を歩く人も観光地を訪れる人もゴミを路上や空き地に捨てる光景を何度か見た。

## (3) 水の問題

私たちの生活では水を3種類使い分けている。1つ目は、ペットボトルやポリタンクで購入した水である。飲み水や調理に使用している。2つ目は浄水器を通した水である。この水で野菜を洗ったり、米を研いだりしている。3つ目は水道水である。食器の洗浄や洗濯、シャワーなどに使っている。水道の水は、白い生地を何回か洗濯をするとだんだんと灰色になっていくのであまり綺麗とは言えない。ムンバイでは、モンスーン期に降った雨を湖でため、その水を浄水場で綺麗にして使用している。

## (4) 大気汚染

朝、起きて窓から外を見ると霞んでいる日が多くある。霧ではなく大気汚染である。インドでは大気汚染が深刻な問題となっている。ムンバイも例外ではない。日本のPM2.5の基準濃度35ug/m<sup>3</sup>は大気質指数100程度になるが、冬季のムンバイはほぼ毎日この基準を超える。ひどい時は、極めて健康によくないという201から300の範囲に入ることもある。(The World Air Quality Index project 発表のデータ参照)

大気汚染の主な原因は、工場・火力発電の排煙、生物燃料の使用、農業廃棄物の焼却、工事現場・道路上の車両通行による粉じん、自動車の排ガス、花火等があげられる。

## 3. インドと日本の違いを意識したSDGs教育の実践

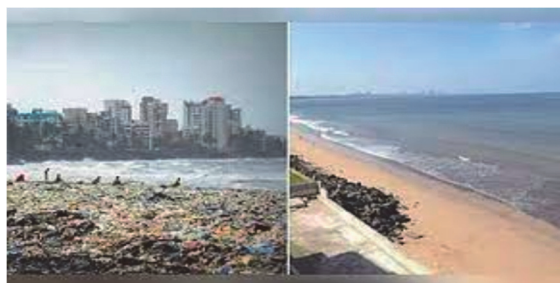
2022年4月から以下の流れで中学部の生徒と学習を進めた。

### (1) 内部情報の蓄積とICTスキルの向上（1学期）

1学期は、内部情報を蓄積することからスタートした。「SDGsとは何か？」から始まり、世界のエネルギー問題、環境問題等を学んだ。また、それと同時並行でICTスキルの向上にも務めた。初めて担当した生徒だったので、最初はタイピングの練習を行った。それ以降は、教科、学活、道徳、総合的な学習、特活の時間でグーグルクラスルーム、スプレッドシート、ドキュメント、ジャムボード、フォーム、スライドを使いながらICTスキルの向上に務めた。

### (2) 今年度の研究テーマの決定（夏休み終了後8月下旬）

夏休みの課題として、SDGs17の目標の中から各自興味をもったものを調べ、プレゼンを作ってもらった。夏休み後に発表会を行い、その後全員で相談して今年度の研究テーマを「水と海」に関することに決めた。



清掃前と清掃後のムンバイの海岸

### (3) 研究テーマにおける調べ学習とプレゼンの作成（2学期）

本やインターネットで世界やインドの水や海に関する問題を調べ、グーグルスライドでまとめる作業を行った。

#### (4) ムンバイの環境活動家アフroz・シャーさんとの出会い (2 学期)

9 月、調べ学習を行っていく中で、ムンバイの海岸を綺麗にする活動に取り組んでいる弁護士であり環境活動家でもあるアフroz・シャーさんの存在を知った。2015 年シャーさんは海の見えるフラットに引っ越した時、窓から見た海岸はゴミで覆われていた。シャーさんはそれを見て「何とかしたい」と思い行動を起こした。最初は隣人と 2 人で活動を始めたが、だんだんと参加してくれる人が増え、今では数百人から数千人の人が参加する活動となった。2015 年から毎週土曜日に行われ、2022 年で 7 年が経過している。



多くの人が参加して行われている海岸清掃

その結果、ムンバイのバーソナビーチは現在綺麗な海岸に生まれ変わった。しかし、海にはゴミが浮かんでおり絶えず海岸に打ち寄せている。そのため現在でも継続した清掃が行われている。

#### (5) 海岸清掃への参加とシャーさんへのインタビュー実施 (英語) (2 学期)

早速、連絡をとりシャーさんが開催している海岸清掃に参加させてもらった。海岸清掃が行われた場所は、日本では想像できないくらいゴミで覆われていた。当日も地元の人やたくさんの外国人が参加し、海岸清掃を行っていた。日本人学校も希望した児童生徒・保護者約 50 名が参加した。児童生徒たちは、ゴミや魚の匂いが立ち込める中、現地の人やスタッフと協力しながら作業を行っていた。

中学部は事前に質問を用意し、シャーさんに英語でインタビューをすることができた。以下その質問とシャーさんの答えの概要である。

Q なぜ、あなたはこのような活動を始めたのですか？

A ゴミで覆われている海岸を見て「私は、自分の両手を良いことに使おう」と思ったんです。母なる自然を愛するという事は、このような活動を通じて愛することなのです。私たちは、ただ「愛している」と言うだけでなく、行動で愛を示します。

Q 私たちの国日本は海に囲まれた国です。もし、日本の海岸や海の問題について知っていることや感じていることがあったら教えてください。

A 海の近くに住んでいる人は、国に関係なくプラスチックの問題に直面します。日本人は掃除がとても上手です。しかし、ショッピングモールには、たくさんのプラスチックがあります。プラスチックは、リサイクルだけでなく削減のほうが重要なことだと思います。

Q ムンバイでは海岸だけでなく道路などいたるところにゴミがあります。ポイ捨てしている人もいます。このような状況をどう思っておられますか？

A これは人間の行動と考え方の問題です。行動を変えるためには、人々の意識を変える必要があります、それは多くの時間がかかります。私が学校や大学で講義や集会を行うのは一つの方法です。人と会い、活動を通して考え方を考えることで、行動を変えることができると思います。

Q 今、スラムにも入って活動されていると聞いています。今後、海岸だけでなくどのようなクリーンアップを考えておられますか？

A スラムの2大問題は、適切な廃棄物管理と、循環型経済です。どちらも廃棄物管理に基づいています。私たちは、プラスチック削減の意識を広め、プラスチックなしの商品を購入するための良い代替手段を提供しています。現在、ムンバイのスラムの人口10万人に世話をしています。

Q 海岸清掃にもたくさん子どもたちが参加していました。シャーさんは参加している子どもたちにどんなことを期待したいですか。

A あなたたちは未来を担うリーダーです。大人はあまり意識していませんから、あなた方が包装を減らす方法、循環型経済を実現する方法、廃棄物を適切に処理する方法などについて何をどうすればいいのかを考えて、全世界に広めてください。

#### (6) 学習発表会で保護者や来賓へ向けてプレゼンテーションを実施 (2学期)

11月に行われた学習発表会で、水や海のことについて調べたことやシャーさんから学んだことをまとめて、保護者や来賓(近隣のインターナショナル校の校長先生方)へ向けてプレゼンテーションを全文英語で行った。

プレゼンテーションはグーグルスライドで共有し、分担した。それぞれの分担でスライドを作成し、まず日本語の原稿を考えた。その後、英語に直し、本校の英語講師や通訳の方から添削をしてもらった。そして、その英文を暗記し、自分たちの思いが伝わるような表現方法を考え、練習を繰り返した。当日の発表は原稿を見ず、ジェスチャーを交え、堂々とすることができた。発表後、生徒たちは多くの方から称賛の声をもらい、とても達成感を感じていた。堂々と発表できるまでには時間がかかったが、とても大きな経験だったと思う。

<発表内容>

- ・命に危険のある水を飲まなければならない地域がある現状
- ・世界の水事情、日本企業の取り組み
- ・ドバイにおける海水の淡水化事業(日本の技術が貢献)
- ・海洋ゴミの実態
- ・海洋ゴミを集めるオーシャン・クリーンアップについて
- ・ムンバイの海岸清掃(アフロズ・シャーさんの取り組み)
- ・シャーさんへのインタビュー
- ・まとめ

#### 4. まとめ

ムンバイで行ったSDGsの実践は次の3点で大きな意味があったと感じている。

- ・生徒が自分の生活の中で、ごみ問題や水問題、海の環境について実体験を持っていたことで深い学びができた。
- ・ムンバイで活動している環境活動家の方から話を聞いたり、実際に海岸清掃に参加したりしたことでより深い学びができた。
- ・全文英語で発表したことにより、英語でのプレゼン力が向上した。

今回の実践を通して感じたことは実体験の重さである。「インド(ムンバイ)という地域で感じたこと」「実際に海岸清掃に参加して感じたこと」「アフロズ・シャーさんから直接話を聞いて感じたこと」全ては本やイン

ターネットでは学べなかったことである。生徒たちはこの様な経験の中で多面的で深い学びができたのではないかと感じている。在外教育施設に勤務できたからこそできた実践であったと思う。貴重な機会をいただいたことに心から感謝したい。

今後はインドでの貴重な経験や学んだこと日本の子どもたちにも伝え、世界的な視野で物事を考える子どもたちを育てていきたい。